震災復興街路の植栽景観計画に関する一考察

学生会員　東京工業大学大学院　大島光博
正 会 員　東京工業大学教授　中村良夫

A Study on Street Planting and Bridge Design in Shinsai Fukko Project

by Mitsuhiro Oshima
Yoshio Nakamura

Abstract

In 1932, the urban road system in Tokyo, which had been destroyed by an earthquake, was constructed according to Shinsai Fukko Plan. This is the first large scale construction of the modern urban street system in Japan.

This paper deals with the road-side planting plan in Shinsai Fukko plan. It was espacially discussed that the relation between the road-side planting plan and the design of the bridge.

キーワード ： 震災復興事業，街路植栽

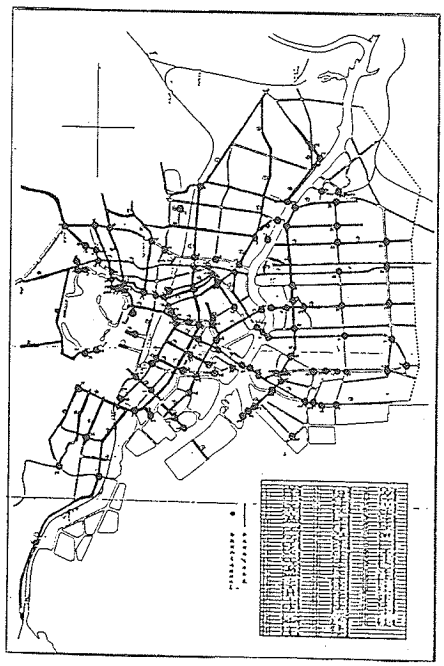
1. はじめに

１９２３（大正１２）年の大震災後，東京の街路は震災復興計画に従って，再建されることとなった。これは日本における初の本格的な近代街路網建設として特筆されるものである。本稿は，従来あまり論じられなかった復興街路の景観計画を主として植栽計画と橋梁造形の側面から論じたものである。

2. 震災復興事業における街路計画

文献(1)によれば，震災前の東京の街路は江戸の町割を濃厚に残し，幅員は狭少で曲りくねった箇所の多い，いわば江戸時代の延長上にあり，近代都市の道路としては不充分であった。

よく知られるように，震災復興事業の街路計画では図－１のような近代的街路網が計画された。この街路網は，東京を南北に品川から銀座の東裏を経て千住方面に縦断する第１号幹線道路（昭和通り）と東京を東西に市ケ谷見付から九段，須田町，両国橋を経て亀戸に横断する第２号幹線道路（大正通り）を最も重要な道路とする。これを基準とするおよそ不規則格子形の形態をとる道路群と，皇居を中心とした環状および放射状の形態をとる道路群からなる



——，● は植栽空間

図－１　街路計画と植栽空間の分布
（原図：文献（４）より）

計５２の幹線道路（幅員２２ｍ以上），計１２２の補助道路（幅員１１～２２ｍ）ならびに延長４９２kmに及ぶ区画街路という構造をとっている。

当初，東京市の内外における道路網の根本的な改革が計画されたが，雄大な計画も各方面の反対のために大幅に縮小され，焼失部分を中心とする計画に終始し，山の手一帯の道路網はおおむねその改修が不徹底に終った。なお事業の施行は，幹線道路について内務省外局の復興局があたり，その他は主として東京市があった。

3.　復興街路の植栽空間の類型化とその分布

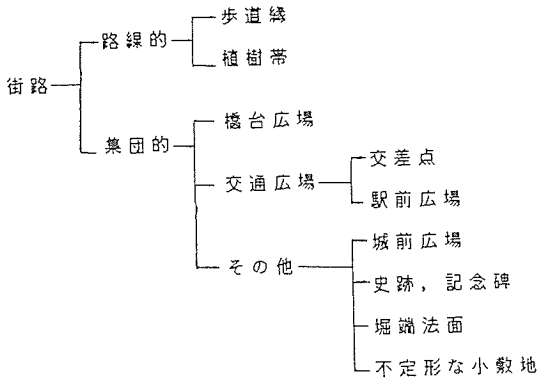
文献によって復興街路のうち復興局施行の幹線道路の植栽空間を植栽形態と周辺土地利用による類型化を行った。この結果をまとめたものが表－１である。

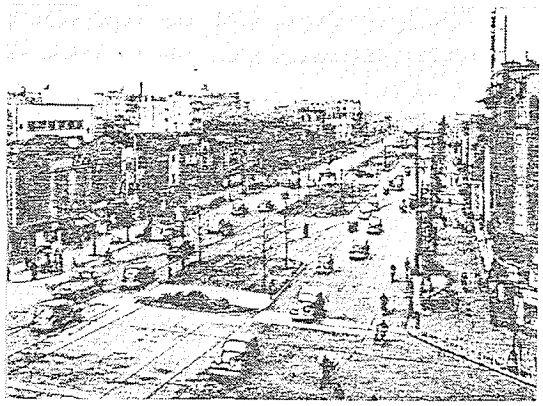
「路線的植栽空間（以下『植栽空間』は略）」はいわゆる並木状に植栽がなされた空間であり，このうち「歩道縁」とは歩道の車道側の縁に植栽された空間であり，「植栽帯」とは街路の一部に植樹帯を設け線的に街路樹と芝が施された空間である。写真－１は「植樹帯」の例である。

「集団的」は，都市の広場的な空間に植栽が施された形式である。この広場は主として街路計画の一環として作られたもので，「橋台広場」，「交通広場」および「その他」に３分される。このうちまず「橋台広場」については本稿４，橋台広場の空間設計で述べる。次に「交通広場」はさらに，「交差点」の交通島的広場の植栽空間と，「駅前広場」に設けられた植栽空間に２分される。最後に「その他」には，江戸城の「城門前広場」の植栽，「史跡・記念碑」を装飾するための植栽，「堀端の法面」および「不定形な小敷地」などがある。写真－２は「交通広場」の例，写真－３は「記念碑」の例，写真－４は「不定形な小敷地」の例である。

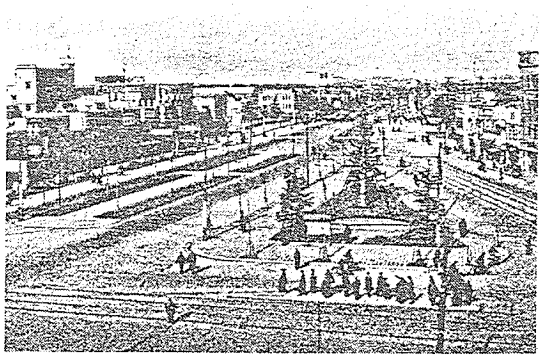
次に各類型ごとの植栽樹木数および地図上での空間的分布を調査した。前出の図－１は植栽空間の分布をも示している。この調査から，①「路線的」植栽と「集団的」植栽を樹木数で比較するとほぼ２：１の比率（１６,４６５本：８,１３９本）で「集団的」植栽も力が入れられていた，②幹線道路延長と「路線的」な植栽がなされた道路延長を比較すると約６８

表－１　復興街路植栽の位置による分類

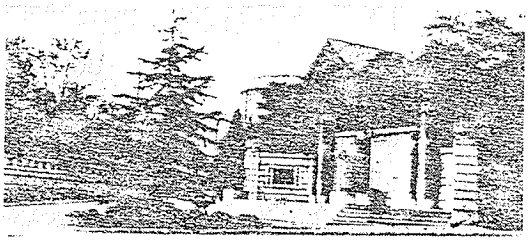




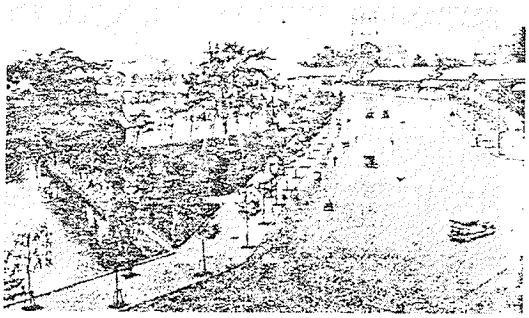
写真－１　昭和通り
（原図：文献（３）より）



写真－２　和泉広場
（原図：文献（３）より）



写真－３　九段坂上尼港遭難記念碑
（原図：文献（８）より）



写真－４　文部省外広場
（原図：文献（７）より）

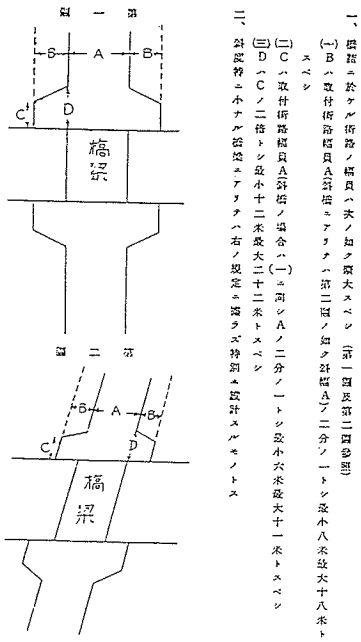
％とかなりの緑化率であった，③「路線的」植栽は皇居付近の路線を中心になされている，④「橋台広場」は，樹木数において「集団的」植栽の多くの部分を占め，空間的には皇居の堀および下町の堀川にかかる橋に多くみられ，街路緑地体系の上では重要視されていた，⑤「交通広場」は数は少ないが昭和通り，大正通りなどの大幹線道路を中心に分布している，⑥「その他」の集団的植栽は，「城門広場」などをはじめとして皇居の堀付近に多く分布している，などの特色が明らかになった。

また当時の写真を参照すると，街路植栽設計において①「路線的」植栽には，昭和通りのブールバール的な植栽など，オースマンのパリ市改造時の街路設計の影響がみられる，②「集団的」植栽には，「交通広場」など街路建設に伴って生じた使いがっての悪い空間をうまく利用している，などの特色があったと考えられる。

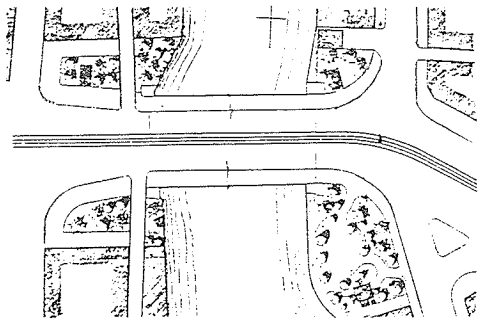
4.　橋台広場の空間設計

橋台広場とは街路が橋梁と接続する際に橋梁でその幅員を拡大するために橋梁の四隅に生じる敷地のことである。この敷地は他に，「橋台敷」，「橋台地」，「橋詰広場」と呼ばれることもある。

文献(2)で復興局は橋台広場の幾何構造規準を図－



図－３　橋台広場の幾何構造基準
（原図：文献（２）より）



図－４　永代橋付近平面図
（原図：文献（４）より）

表－２　橋台広場の設置目的
（文献（９）を参照）

1. 防災用地（類焼防止、消防活動のスペース、一時の避難所、応急橋架設用地）
2. 架け替え時の仮橋架設用地
3. 作業用地（架橋時の作業用地、維持補修などに必要な作業用地、架橋時および維持補修時の資材置き場）
4. 橋梁基礎に影響を与える近接構造物の建設防止
5. 交通整理施設収容用地（交差点の隅切、歩道の拡幅）
6. 高欄の端末処理用地（親柱の収容）
7. 公共施設収容用地（交番、公衆便所、休憩施設）
8. 植栽用地

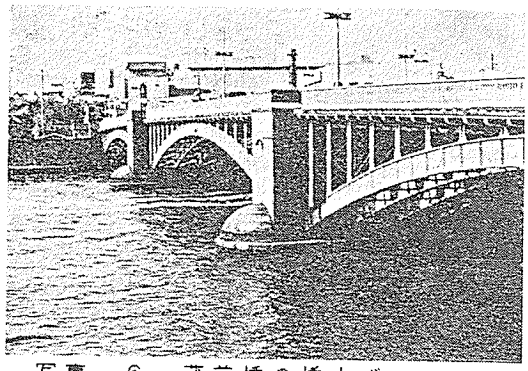
3のように定めている。この空間は前述したように街路緑地大系の中で重要な位置を占めている。図－4は橋台広場への植栽の一例で，橋の四隅に植栽がなされていることがわかる。

しかしなぜ復興局が橋台広場を設けたのかは文献では明らかにされていない。そこで東京都都市計画局，建設局，当時の橋梁技術者に対してヒアリングを行い，その設置目的を表－2のようにまとめた。

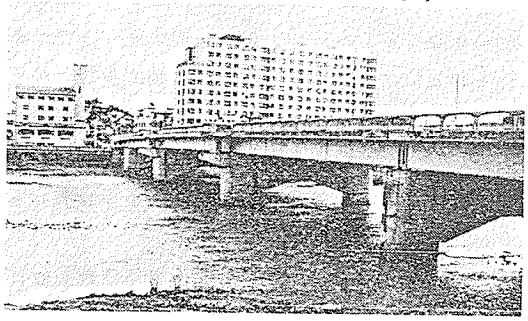
次に表にあげた設置目的相互のヒエラルキーについて考察した。文献(3)によると「道路敷にして而も交通上利用されざる広場又は橋台敷等は，これを空地のまま放地するときは地先に悪用されるおそれがあるので，斯る箇所に都市美観上の見地から植樹帯を設置し，張芝，灌木等の植樹或は水栓を設け道路の風致を添えることとした。」とあり，これより表の設置目的1～4が上位の目的であり植栽地としての空間利用は，使いがっての悪い空間を修景的な処理を行い利用したものと推測できる。

次に橋台広場と橋梁のデザインとの関連について調査した。設置目的の6，7にもあげたように橋台広場は橋梁の端末処理と一体となって写真－5のように河川や橋をながめる視点場を与えている。しかし橋梁のこうした端末処理はそうした機能ばかりでなく，橋梁の外観を考えた場合，下部構造と上部構造のおさまりを整えるという機能をはたしていると考えられる。同様のことが写真－6に示すような橋上バルコニーについてもいえる。現在では，写真－7にみられるように視点場を与えるという機能しか考えず，両者を融合するという役目への洞察が欠けていると思われる。

写真－5　両国橋橋詰
（撮影：大島光博，1981）



写真－6　蔵前橋の橋上バルコニー
（撮影：大島光博，1981）



写真－7　宝塚大橋の橋上バルコニー
（原図：美しい橋のデザインマニュアル，1982）

5. むすび

本稿では，震災復興事業時の街路植栽景観計画についてその特色を植栽空間の形態の面から考察した。街路景観計画の面から他に，道路橋のデザイン，道路と周辺建築物との調和なども興味深い項目であると思われる。これらの項目は資料の不備を補う事とともに今後の課題としたい。

最後に，ヒアリングに応じて下さった東京都都市計画局，建設局の方々，橋梁技術者の方々に対し，心から感謝します。

6. 参考文献

(1)東京百年史第4巻，1968
(2)復興局道路工事設計基準並工事仕事書集，1932
(3)東京市道路誌，1939
(4)帝都復興事業誌土木編，1931
(5)　〃　〃　建築編，1931
(6)　〃　〃　計画，監理，経理編，1932
(7)内山善三郎，帝都復興事業大観，日本統計普及会，1930
(8)山本三生，日本地理大系3－大東京編，改造社，1930
(9)木住野英俊，都市橋梁と空間と基礎76-3，1976